

孟子 モウシ 372 ~ 289 ? B.C.

中国、戦国時代の思想家。姓は孟、名は軻(か)。字を子輿(しよ)、子車とも。孔子に次ぐ人として亜聖とも呼び、後世には孔孟と並称される。

魯に近い小国「鄒(すう)」に生まれた孟子は、幼いころ父親に死なれたが、教育熱心な母親に育てられた。漢の劉向(りゅうこう)が編纂した「列女伝」によると、孟子の母親は教育のために、墓場のそばから市場のそばへ、市場のそばから学校のそばへと三度転居したという(「**孟母三遷の教え**」)。また、遊学途中に帰宅した孟子に、織りかけの布を断って、勉学を途中でやめることを戒めた「**孟母断機(き)の教え**」の逸話も有名である。

魯に遊学した孟子は、孔子の孫である子思の門人に学び、孔子の思想を継承展開した。50歳以降は、諸国(梁・斉・宋・薛・滕)に遊説し王道論を主張したが、彼の理想主義的な思想は結局のところ諸侯には入れられなかった。鄒に帰国してからは、門人の教育に専念し、門人の万章(ばんしょう)・公孫丑(こうそんちゅう)らと「孟子」7編を著した。

Great Books 03 孟子(もうし)

中国戦国時代中期の思想書。孟軻(もうか)の言をその弟子たちがまとめたもの。7編あり、各編とも上下に分かれる。宋代に朱子によって四書の一つに数えられ、『論語』『大学』『中庸』とともに儒教の教典となった。

孟子は、孔子の「仁」をうけついで、そこに人の踏むべき道である「義」を加え、いわゆる「仁義」の道徳を定義した。彼の説いた「王道」とは、「徳を以て仁を行う者は王たり(公孫丑上)」とあるように、「仁義」の道徳に基づいた善政のことである。君主の役割は、「人に忍びざるの心」によって、人民に恒産(一定の安定した生業)を保証し恒心(常に変わらない正しい心)をもたせることであって、霸道政治のように武力で国を治めることではない。よって、人民への責任を果たさない君主は廃すべきだという「易姓革命」の理論は、彼にとっては当然のことであった。

また孟子は、この「人に忍びざるの心」は、誰の心にも備わっていると考え、人の本性は善だと主張した(「**性善説**」)。有名な「**四端の説**」とは、人が生まれながらにして持っている、惻隱の心(人の不幸を見過ごせぬ心=人に忍びざるの心)・羞惡の心(不義不善を恥ずかしく思い悪を憎む心)・辞讓の心(他人に譲ろうとする心)・是非の心(物事の善悪を判断する心)が、「仁」・「義」・「礼」・「智」の端(本質)であるという「性善説」に基づいた考え方である。孟子の学問の目的は、この「四端」を育てて大きくしていくことであり、それを失ってしまっている人に取り戻させることにあったと言えるだろう。

Key Word 性善説(四端説)

人皆人に忍びざるの心有り。先王人に忍びざるの心有り、斯に人に忍びざるの政^{まつりごと}有り。人に忍びざるの心を以て、人に忍びざるの政を行はば、天下を治むること、之を掌^{しょうじょう}上^{めく}に運らすべし。

人皆、人に忍びざるの心有りと謂ふ所以の者は、今、人乍^{たちま}ち孺子の将に井に入らんとするを見れば、皆怵^{じゅつてき}惕惻隱の心有り。交はりを孺子の父母に内^いる所以に非ざるなり。誉れを郷党朋友に要^{もと}むる所以に非ざるなり。其の声を惡^{にく}みて然^{しか}るに非ざるなり。

是に由りて之を觀れば、惻隱の心無きは、人に非ざるなり。羞惡の心無きは、人に非ざるなり。辞讓の心無きは、人に非ざるなり。是非の心無きは、人に非ざるなり。惻隱の心は、仁の端なり。羞惡の心は、義の端なり。辞讓の心は、礼の端なり。是非の心は、智の端なり。人の是の四端あるは、猶^{なほ}其の四体あるがごときなり。是の四端ありて、自ら能^{あた}はずと謂ふ者は、自ら賊^{そこな}ふ者なり。(『孟子』公孫丑上)

(現代語訳)

人は「人に忍びざるの心(人の不幸を見過ごしにできない心)」を持っているものだ。前代の聖人である先王にも、「人に忍びざるの心」があった。それゆえ、「人に忍びざるの政治(なさげぶかい政治)」が行われた。

「人に忍びざるの心」をもって「人に忍びざるの政治」を行ったならば、天下を治めることは、手のひらでものを転がすようにたやすくできる。

人には誰にでも「人に忍びざるの心」があるわけは、以下のことでわかる。今、仮に不意に子供が井戸に落ちていているのを見たら、誰でもあっと驚き、いたましく思う。(いたましく思って助けるのは、)子供の父母に交際を求めようとする(打算的な)気持ちからではない。また、同郷の人々や友人にほめてもらおうと思ってするわけではない。(助けなかったという)悪い評判がたつのが嫌だから助けるわけでもないのだ。

以上のことによってこれを観察してみると、惻隱(そくいん)の心がない人は人間ではない。羞惡(しゅうお)の心がない人は人間ではない。辞讓(じじょう)の心がない人は人間ではない。是非(ぜひ)の心がない人は人間ではない。惻隱の心は、仁の本質である。羞惡の心は義の本質である。辞讓の心は、礼の本質である。是非の心は、智の本質である。人間がこの仁義礼智という四つの本質を持っているのは、生まれながらに両手両足があるのと同じである。この四つの本質があるのに、自らできないとあきらめてしまう者は、自らそこなう者である。

◆ Great Books 文献案内

- 📖 孟子 上(岩波文庫ワイド版) / 小林勝人(訳注)
岩波書店 1994年刊 264p <124.16CC / 1 / 1> 資料番号 20688388
- 📖 孟子 下(岩波文庫ワイド版) / 小林勝人(訳注)
岩波書店 1994年刊 514p <124.16CC / 1 / 2> 資料番号 20688370
- 📖 新釈漢文大系4 孟子 / 内野熊一郎(著)
明治書院 1989年刊 558p <082 / 14 / 4> 資料番号 20028312
- 📖 全釈漢文大系2 孟子 / 宇野精一(著)
集英社 1973年刊 578p <122 / 30 / 2> 資料番号 10204220
- 📖 世界古典文学全集 第18巻 大学 中庸 孟子 / 湯浅幸孫(ほか訳)
筑摩書房 1971年刊 346, 24p <908 / 29 / 18> 資料番号 11876158

◆ 理解を深めるために 参考文献案内

- 📖 列女伝1(東洋文庫) / 劉向(著) 中島みどり(訳注)
平凡社 2001年刊 292p <282.2KK / 109 / 1> 資料番号 21367578
- 📖 鑑賞中国の古典 第3巻 孟子・墨子 / 島森哲男(ほか著)
角川書店 1989年刊 434p <928Y / 6 / 3> 資料番号 20144846
- 📖 人類の知的遺産9 孟子 / 貝塚茂樹(著)
講談社 1985年刊 303, 11p <280.8K / 13 / 9> 資料番号 10497162
- 📖 中国の人と思想2 孟子 / 鈴木修次(著)
集英社 1984年刊 278p <124.6 / 7> 資料番号 12302113
- 📖 孟子(中国古典新書) / 渡辺卓(著)
明德出版社 1971年刊 216p <122 / 29 / 18> 資料番号 10203511
- 📖 孟子(岩波新書) / 金谷治(著)
岩波書店 1966年刊 186, 7p <124.16 / 2> 資料番号 20709234
- 📖 世界の名著3 孔子・孟子 / 貝塚茂樹(編)
中央公論社 1966年刊 558p <080 / 5 / 3> 資料番号 12784211
- 📖 諸子百家(岩波新書) / 貝塚茂樹(著)
岩波書店 1961年刊 182p <122 / 12> 資料番号 10203081
- 📖 講孟余話(岩波文庫) / 吉田松陰(著) 広瀬豊(校訂)
岩波書店 1936年刊 308p <124 / 3> 資料番号 20960936
*旧名 講孟筭記